

瀬戸内市立瀬戸内市民病院だより

さんさん広場

第 121 号

<<編集・発行>>
 瀬戸内市民病院広報委員会
 瀬戸内市邑久町山田庄 845-1
 TEL (0869) 22-1234
 FAX (0869) 22-3296
 URL <http://www.city.setouchi.lg.jp>



＜理念＞ 市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。



(北方面)



(東方面)



(西方面)



(南方面)

「瀬戸内市民病院の周（秋）景」 新型コロナ禍、お見舞制限の影響や「健康教室」など院内の諸行事がほぼ中止となる中、病院にお越しになられる機会が減ったとお感じになられる方も多いと思われます。今号では特に病院屋上から撮影した周景（秋景）をご提供いたします。東に中学校、西に小学校などの文教エリア、また西側は市役所・JR 邑久駅や大型商店など活性化した市都エリア。南にはブルーライン、北側にはのどかな田園風景と南北道。交通至便の地にあり、絶好の療養環境を醸し出しています。（経営企画室次長 馬場洋一）

目次

- | | |
|---|-----------------------------------|
| □ 写真「瀬戸内市民病院の周（秋）景」 ……1 | □ 西病棟発「絵手紙を楽しもう」 ……5 |
| □ -健康管理センター発-健診のススメ ……2,3 | □ 医療安全研修（BLS 研修）を終えて ……6 |
| -地域の皆様おひとりお一人の健康を守ります- | □ 接遇委員会発「ありがとう 心に染みる ……6
思いやり」 |
| □ 牛窓中学校から亀のストラップの贈り物 ……3 | □ 認知症研修を開催して ……7 |
| □ -接遇委員会発-令和3年度「患者さまへのアンケート」結果（概要報告）-いつでもどこでも どなたに対しても- | □ 漫筆「見たり・言ったり・聞いたり（6）」……7 |
| | □ 職員紹介コーナー『庭』 ……8 |
| | □ 今年も病院玄関に豪華絢爛大菊7鉢 ……8 |
| | □ 編集委員のちょっと一服～オリーブの木の 下で～ ……8 |

—健康管理センター発—

健診のススメ —地域の皆様おひとりお一人の健康を守ります—

【健康診査の重要性】

院長 竹内龍三

厚生労働省が7月30日、2020年簡易生命表の結果を取りまとめで公表しました。それによると、男性は81.64年、女性が87.74年で、前年からそれぞれ0.22年、0.30年伸びて過去最高を更新したとありました。このように平均寿命の著しい伸長にみられるように、近年の国民の健康水準の向上には目覚ましいものがあります。しかし、一方において、人口の高齢化、社会生活環境の急激な変化等に伴って、糖尿病、がん、心臓病、脳卒中等に代表される生活習慣病の増加等が大きな問題となつています。このように人口の高齢化及び疾病構造の変化を勘案し、現在国は、疾病の早期発見や治療に留まることなく、生活習慣を改善して健康を増進し、生活習慣病等の発病を予防する「一次予防」に重点

を置いた対策を推進しています。狙いは、壮年期死亡の減少及び認知症若しくは寝たきりにならない状態で生活できる「健康寿命」と言われる期間の延伸を図ることにあります。この一次予防は、日常の在り方と深く関連しています。つまり健康の保持・増進を図るためには、運動習慣の定着や食生活の改善といった個々の生活習慣の改善の重要性をひとり一人が理解し、認識された健康づくりの実践が最も大切となります。

私ども瀬戸内市民病院では、一次予防の支援の他、主には二次予防（人間ドック等健康診査等による早期発見・早期治療）と三次予防（疾病が発症した後、必要な治療を受け、機能の維持・回復を図ること）を担当しています。ご自身の健康が家庭を守り、社会を支えます。病気を予防する、病気を早期に発見し治療につなげる健康診断の役割は重要になってきます。当センターでは「地域の皆様おひとりお一人の健康を守ります」をモットーに業務の改善、技術の向上に努めています。

【健康管理センターについて】

主任 金光砂智子

健康管理センターでは、広く快適な専用待合フロアや更衣室、並びに計測・採血室を完備、プライバシーに配慮した診察室が設けられています。また新病院開設時に導入した電子カルテにより、受診者様共通IDで治療医学と予防医学のデータ管理を行うことができ、受診後のフォローにも努めています。一方、受付から健診の実施、そして会計まで受診者様のスムーズなフローにも配慮し、動線的には外来診療と区分（一部併用）し、経験を積んだ専従の健診担当スタッフを配置しています。それでは、各種健康診査（健康診断と人間ドック）についてご案内します。

基本健診（健康診断）

健康診断（健診）は、生活習慣病やがんをはじめ、様々な病気の早期発見・早期治療、病気のものを予防することを目的に行われています。労働安全衛

生法で定められた法定健診、事業主が実施することが法律で義務付けられている健康診断が一般健康診断です。また、法律により医療保険者が40歳から74歳までの加入者（被保険者・被扶養者）を対象として、毎年度計画的に実施する内臓脂肪型肥満に対する特定健康診査（通称「メタボ健診」）があります。

人間ドック

人間ドック（ドック健診）は、自覚症状の有無に関係なく、自身の健康状態に合わせて定期的に受診する健康診断です。身体各部位の精密検査を受けて、身体の各臓器の異常や健康度合いをチェックします。必要であれば、当院を含む医療機関を受診されるか、経過観察をしていただくこととなります。

【主な検査項目】

（基本的検査項目）

- 診察 ○腹囲 ○身体計測 ○B M I（肥満度指数） ○血圧測定 ○聴力検査 ○視力・眼底検査 ○肺機能検査 ○心電図検査（安静時）

（血液検査項目）

- 総コレステロール ○中性脂肪

- HDLコレステロール(善玉) ○LDLコレステロール(悪玉) ○血糖値 ○HbA1c(糖尿病診断)
- 総たんぱく量 ○AST/ALT ○γ-GTP ○ALP ○総ビリルビン ○アミラーゼ ○クレアチニン ○尿素窒素 ○eGFR ○尿酸 ○赤血球数 ○ヘモグロビン ○ヘマトリット ○白血球数 ○血小板数
- (尿・便検査項目)
- 尿たんぱく ○尿糖 ○尿潜血反応 ○尿ウロビリノーゲン ○便潜血検査
- (画像検査項目)
- 胸部X線検査 ○胃部X線検査 ○腹部超音波検査
- (消化管内視鏡検査項目)
- 胃内視鏡検査
- 【オプション検査項目】
- (血液検査項目)
- 肝炎ウイルス ○甲状腺ホルモン ○心臓機能 ○前立腺がん ○すい臓がん ○肝臓がん ○消化器系がん ○抗CCP抗体 ○抗MMP3抗体 ○ペプシノゲン・ヘリコバクター・ピロリ抗体
- (その他の検査項目)
- 便中ピロリ抗原 ○頸動脈超音波

- 血圧脈波 ○骨粗鬆症 ○脳MRI撮影 ○内臓脂肪CT ○腹部CT(内臓脂肪CTを含む) ○低線量肺がんCT

健康管理センターでは、各四半期ごとに「健康管理センターだより」を発行。2021年冬号では、放射線科からは①X線撮影検査 ②胃部透視検査 ③マンモグラフィ検査 ④CT検査(胸部・腹部) ⑤MRI検査 ⑥骨塩定量測定検査について、検査科からは超音波検査を中心に紹介をしています。ホームページにも掲載していますので、是非お目通しいただければと思います。



健診スタッフ一同、皆様のお越しをお待ちしております

牛窓中学校から亀のストラップの贈り物

9月9日(水)、牛窓中学校の番場先生が同校を代表して毎年恒例となつた同校作成の「亀のストラップ」を、同校保健委員長 高橋蓮さんのお手紙、制作風景の写真とともにお届けくださいました。

このストラップは、保健委員会のメンバーと有志の方、及び校長先生はじめ教員の方も参加されて作成されたストラップです。

高橋委員長のお手紙には、「昨年は新型コロナウイルスの影響で病院に行けなかった。今年こそはと考えています。」



たがそれもかなわなくなつた。患者さんにお渡しいただけるということ、患者さんの回復を願い、元気で長生きしていただきたいの思いを込め、保健委員会と有志で夏休みに一生懸命作りました。直接病院に行けなくても、僕たちの思いは亀に託しきつと皆さんに届けられると思う。」と力強く結んでおられました。

当院では、亀のストラップを入院患者さん全員にお渡しするとともに、外来と各病棟の掲示板にストラップ数点とお手紙、制作風景写真を1か月にわたって掲示させていただきます。改めて御礼申し上げます。

(広報委員会)



— 接遇委員会発 —

令和3年度「患者さまへのアンケート」結果（概要報告）

— いつでも どこでも どなたに対しても —

接遇委員会は、今年も患者さんやご家族のご理解とご協力のもと、患者満足度調査として「患者さまへのアンケート」を実施しました。

入院については8月1日から31日までに退院された患者さん、外来については8月16日（月）から同月27日（金）までの10日間において受診された患者さんを対象に実施させていただきました。このアンケートは平成27年度から毎年実施していますが、7回目となる今年度も接遇委員会の行動計画の一環として実施しました。回答にご協力いただきました皆様に、本紙面をお借りし御礼申し上げます。

なお、結果の詳細はホームページでも公表していますのでご覧ください。

〔アンケート内容〕

昨年度見直した設問項目で今年度も実施させていただきました。

即ち、調査事項たる設問項目では、外来では受診された

診療科、当院を選ばれた理由の他、案内や看板表示、廊下や階段の安全と歩きやすさ、待合室の椅子の配置等の設備や環境、職員の接遇、プライバシーへの配慮など。入院では、入院目的、入院期間、施設・設備、清掃や臭気等の環境、症状・治療に関する説明、態度や言葉遣い（接遇）、プライバシーへの配慮など。

〔調査方法〕

入院に関しては、従来どおり患者さんの入院時等に病棟職員から説明のうえ、アンケート用紙と回答用封筒をお渡ししましたが、外来に関しては昨年に引き続き新型コロナウイルスの観点から、説明員を設けず、所定の場所での自由記載方式としました。ただし、これでは一定の回収数が得られない可能性も考えられ、期間は今年の3日間から10日間へと延長して実施しました。

〔回収数の状況〕

★外来アンケート	回収数	10
★入院アンケート	回収数	49
	回収率	55.7%

今回も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施し、無人化した調査環境としましたが、折からの感染者数激増時期と重なり、外来の回収率が例年の約25%から0.5%と激減。この状況を踏まえ、今後、有効なアンケートの実施とは何か等、非接触の時代における望ましい方法を継続して検討していく必要があると考えています。

〔総合的な評価〕

入院における総合評価5項目の代表的項目である「全体としてこの病院に満足している（当院に入院してよかった）」の満足度は91.3%で対前年度比プラス1.1Pと高評価をいただくことができました。

なお、外来については回収数が10枚と少ないうえに、回答のない診療科もあることから、特に比較

検討に用いる場合は「参考」ととどめることが妥当と判断しました。しかし、アンケートにご協力いただいた個々の方々の評価とご意見は、他の回答と同じく調査と再評価の対象とし、今後の改善活動に向けて更なる励みにしていきたいと考えています。以上の理由から、本紙では主に「入院」を中心に報告させていただきます。

〔満足度ポイントの動向〕

当接遇委員会では、「満足度（%）」「不満足度（%）」で算出される数値を満足度ポイント（P）と称して、個々のアンケート設問項目について比較検討を行っています。

入院における満足度ポイントは、施設・設備面では全8項目のうち「病棟や病室内の清掃」など6項目において大きく上昇、中でも「病棟や病室内の臭気」は33.1Pと大幅に上昇しました。しかし、個々にみると、「掲示板の表示」でマイナス1.4P、「廊下や階段は安全で歩きやすい」でマイナス2.1Pとわずかながらマイナス評価となりました。接遇面では、全9部門のうち、4部門でプラス、5部門ではマイナス評価となりました。いつでもどこで

もどなたに対しても、緊張感をもった適切な接遇を心がけていく必要を感じました。また、「症状・治療に関する説明」に関し、全8部門のうち看護部・検査・医療相談の3部門でプラス評価、その他の5部門ではマイナス評価となりました。どの部門でも患者さんの理解がすすむような説明を心がけていく姿勢や学習はとても重要なことだと考えています。

「プライバシーへの配慮」では3.1Pプラス評価となりました。

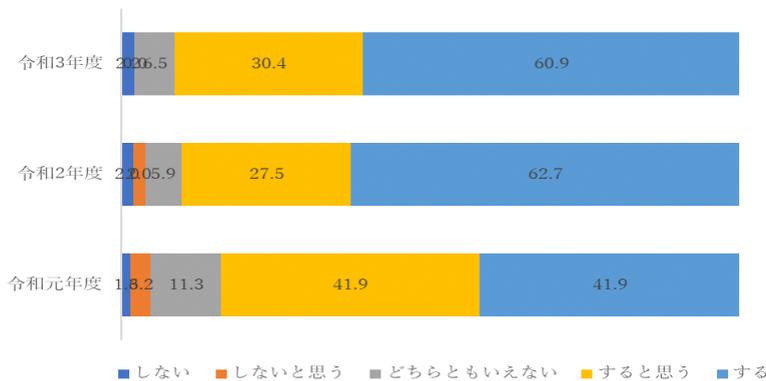
なお、本アンケート（入院・外来）で自由記載の「当院の改善すべき点」、「当院のよい点」、「その他お気づきの点」も早い段階で各種会議で報告し、業務改善の参考とさせていただきます。

今後も専門職として、説明力や診療等技術力の向上に努力すべきことは当然ですが、紙面では触れていませんが「待ち時間」短縮という継続したテーマや「接遇力」向上には弛まぬ努力

が必要と感じています。一方、ウイズコロナに代表される非接触の時代こそ、一層丁寧なコミュニケーションが求められるものと考えています。今後はそういった観点からも、職員全体で患者さんへのサービスの在り方に関し、強い関心を寄せるべきであろうと考えています。

（接遇委員会委員長（内科医長）加原健治）

全体としてこの病院に満足しているか



西病棟発

「絵手紙を楽しもう」

回復期リハビリテーション病棟では、「回りハカフェ」と称したレクリエーションを毎月行っています。コロナ禍にあつて飲食はできませんが、5月号では「お花見を楽しもう」ということで、しだれ桜の作成風景をご紹介します。今号では、新型コロナウイルス禍のさなかにあり、面会制限で家族との連絡もままならない時期をお過ごしの方やご家族間を結ぶ手段のひとつになればという思いで、季節感いっぱい「ぶどう」をテーマにした絵手紙作成を企画しました。その状況をご報告します。



9月22日（水）午後、談話コーナーに三密を避けるため、最大で15名

程度の患者さんが交代で参集し絵手紙に挑戦しました。ご家族様などに確認した住所を職員が書き添ったはがきの裏面にぶどうの塗り絵枠を準備し、予め粒状サイズに切っておいた色とりどりの色紙を塗り絵枠に貼りつけて完成させるといったものです。いくつもブドウの粒を重ねて重厚かつ豪華なはがき、粒の塗りにキチンと色紙をあわせてだけのすっきりしたはがきなど、それぞれ個性豊かなはがきが完成しました。貼り絵のスペースにはそれぞれのご家族や親しい方に当てたメッセージを書いていただきました。多くは「元気でござっております」、「お元気ですか」など、長くお会いしていない大切な人への安否の連絡や確認ではなかったでしょうか。短い時間でしたが、今回も元気に楽しくレクリエーションを行うことができました。

（西病棟広報委員）



医療安全研修 (BLS 研修) を終えて

9月2日(木)、16日(木)、さんさんホールにおいて、竹内院長を講師に迎え、入職3年未満の全職員を対象に医療安全研修(BLS研修)を実施しました。▼BLSとは「Basic Life Support(一次救命処置)」の略称です。一次救命処置とは急に倒れたり、窒息を起こした人に対してその場に居合わせた人が救急隊や医師に引き継ぐまでの間に行う応急処置のことです。専門的な器具や薬品など用いることなく行う処置であり、胸椎圧迫によるCPR(心肺蘇生法)そしてAED(自動体外式除細動器)の使用を主な内容として



います。▼正しい知識と適切な処置の仕方を知っていれば誰でも行うことができます。▼意識のない人に対してまず呼びかけを行います。①応答がない ②脈がない ③自発呼吸がないまたは正常な呼吸をしていないことが確認されれば、直ちに近くの人に緊急事態であることを伝え、AEDと救急車の要請を行います。救急車到着までの間、胸骨圧迫(心臓マッサージ)を圧迫30対人工呼吸2の回数で繰り返しますが、途中2分ごとにAEDで心臓の動きを解析し、必要であれば電気ショックを行います。▼研修では、3人1組になり、救急車を呼ぶ人・胸骨を圧迫する人・AEDを装着し作動する人の役割分担で行いました。それぞれの役割を交代しながら行い、各々の役割を認識しあい、周囲の人に状況を正確に伝えるためのコミュニケーションをも意識して行いました。今回、初めて参加した人もいましたが、胸骨圧迫の力加減やスピード感、情報伝達の大切さは業務の範疇を超えて参考になったようです。

(医療安全担当看護師長

野口佐登美)

接遇委員会発

「ありがとう 心に染みる 思いやり」

標語の選定を開始した平成28年度から通算し、今回で11回目となる接遇標語を決定しました。職員から募集し、接遇委員会がこれはいちいもの1題を選び出し、6ヶ月ごとの標語として各職場に掲示、執務中における態度や心構えの基本としていくところとす。今回の募集は令和3年度後期(10月〜3月)の標語ですが、応募数は前回より3題多い21題でした。その中で最も高い評価を集めた「ありがとう 心に染みる 思いやり」が選出されました。因みに次点は「身だしなみ あなたの心を 映し出す」でした。岡山県内の新型コロナウイルス感染

症はステージも「に引き下げられるなど、新規陽性患者数も減少傾向です。しかし、これから冬に向かい季節型インフルエンザの流行も懸念されます。医療機関にとっては怠りない感染管理が求められます。このようなどきだからこそ、この標語を実践し、市民の皆様により満足のいただける医療の提供と療養環境の提供に努めていきたいと考えています。

(接遇委員会委員長

(内科医長) 加原健治)

令和3年度後期目標

ありがとう

心に染みる

思いやり

接遇委員会

「認知症研修」を開催して

看護教育委員会(東病棟看護師長)伊丹めぐみ

9月15日(水)、看護教育委員会主催による「認知症研修」を行いました。研修のねらいは、①認知症患者に対するコミュニケーション方法が分かる。

②認知症患者の疑似体験をすることで患者の気持ちを理解する。③認知症患者に対する看護を振り返り、より良い看護を考える。としました。コロナ禍での研修であることから各部署2名までの人数制限での研修としました。

研修は、まずeラーニングで「認知症患者に対するアセスメントとケア」の悪い事例動画を視聴し、その後各グループに分かれて悪い事例のロールプレイを行いました。続いて、看護師の対応で患者さんはどんな思いをしたのか、どのような言葉かけや対応をするべきであったのかについてグループワークを行いました。

最後にグループワークで得た内容を落とし込んだロールプレイを再び実施。各班2回のロールプレイを通じ看護師役と患者役を体験していただきましたが、それぞれの立場で考えるよい機会となりました。

また、実際に車椅子で安全ベルトを装着している患者体験も行いました。その結果「患者さんは拘束感や羞恥心を感じながら過ごしていることを強く感じた。できるだけ外してあげたい。」との感想や意見が多く聞かれました。

認知症患者さんの行動の背景には意味があります。その背景は何かを考え、日々の業務を振り返り、症状に合わせた望ましいケアが行えればと考えています。

「認知症研修」に参加して

今回、車椅子で安全ベルト装着患者との関りで、悪い事例を通しコミュニケーションのあり方や、実際に安全ベルト装着を体験することで改めて患者の立場や思いを理解するよい機会となりました。「強い言葉使い」、「上から視線」、「高圧的な態度」は恐怖を

感じさせ、抑制中の無理な立ち上がりへの誘因になる虞があるのではと感じました。また安全ベルト体験は圧迫感、羞恥心、不自由などのストレスを感じました。そのため、認知症患者の苦痛を捉え、視線を合わせ、優しく触れ・穏やかに話す・訴えを否定せず気持ちを理解するなどの態度がコミュニケーションの場面で特に大切と感じました。また「抑制を当たり前にしないケアへのアプローチ」も実践していきたいと思いを強くしました。

東病棟(主任看護師) 大倉真季



漫筆「見たり・言ったり・聞いたり」(6)

皆様は、ご自身でも気づかないでいる自分流儀の記録をお持ちではないでしょうか。今回の漫筆、このテーマで私自身のことについて書いてみます。実は、人様に自慢できるものはありませんが、全国47都道府県内で宿泊したことがある、という珍記録保持者です。このことに気が付いたのは、今から10数年前名古屋で開かれた全国学会で同じ病院から行かれた某院長と話したことがきっかけです。

○(院長)「馬場君、昨夜はどこに泊まったのかね」◇(馬場)「岐阜に泊まりました」○「なんで岐阜なん?」◇「これで47都道府県内すべてで宿泊したことになるからです」○「それ凄いとや」◇「医師の方々は学会等で全国に行かれませんか」○「それでも全国すべてというのは珍しいで。自慢したらえーよ」というので、この記録が意外に凄いのではないかと、思うようになったのです。皆様も、意外な珍記録があるかもしれないので、自分探しをしてみるのも楽しいかもしれませんよ。
(経営企画室次長 馬場洋一)

職員紹介「庭」コーナー



かんざきまいこ
クラータ 菅崎真依子

瀬戸内市民病院でクラークとして働いている菅崎真依子です。「クラーク」の業務内容は病院によってさまざまですが、医師が行う事務作業を補助するスタッフのことです。初めてのことや未だに分からないこともあります。可愛がってくださる先輩方のおかげで楽しく3年目を迎えています。私は倉敷市からここ瀬戸内市まで車で通勤しています。毎日の渋滞は相変わらずで、帰りは自宅に着くまで1時間半もかかり閉口することもあります。元気いっぱい仕事にも通勤にも前向きに取り組んでいます。倉敷といえば「美観地区」「三井アウトレットパーク」が有名ですが、年々生まれ変わって新しい顔も見せてくれています。瀬戸内市から少し遠いとは思いますが、皆様もコロナが落ち着いたらぜひ足を運んでみて下さい。

★★ 次号の「庭」★★

看護師の中西彩さんです。ご期待ください。

今年も病院玄関に豪華絢爛大菊7鉢

正面玄関横のスペースに大菊3本仕立て6鉢及び同7本仕立1鉢が飾られ、訪れる方々の目を楽しませてくださっています。

品種は、3本仕立てについては艦隊(黄) 1鉢、空の翼(白) 1鉢、大日(赤) 1鉢、重文(赤) 1鉢、右近(黄) 1鉢、公爵(白) 1鉢の6種で、7本仕立ては純白に輝く越山1鉢です。市内の愛好家2名の方が昨年に引き続き10月19日(火)から配置して下さ

っており、今年で4年連続となります。見ごろは10月下旬から11月中旬までとこのことです。是非ご覧いただければと思います。また、菊は「瀬戸内市の花」に選定されており、10月17日(日)

から11月16日(火)までの会期で第35回備前長船菊花展が市内長船町公民館を会場に開催されています
(広報委員会 馬場洋一)



編集委員の

ちょっと一服 ~オリーブの木の下で~



自宅の換気扇を回すとテレビの音が聞きづらい。前からこんなだった? いや、もうずっと掃除していない。いつかしようと思いつつ出来ていなかった換気扇掃除をやっと実行しました。ベトベトの油汚れをつけ置きして落とし、周りもきれいに拭いてセット完了。電源を入れるとびっくりするくらい静かな稼働音。なんだか清々しい。そこから大掃除のスイッチが入った私は、休みの度にいろんな所を大掃除しています。今度の休みはどこを磨こうかと、楽しみになってきました。(K)